

「家がいいね」 第165号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2018.2.5

うんこよ きょうも げんきに できていい

寝床の上で排便をするしかない方の家へ訪問し「くさいでしょう」と恐縮され、換気や消臭に気を遣われることが結構あります。私も看護師も、そしてヘルパーさんたちも、便が無事に出てくれることに安堵し、臭いは気にならないのですが。思えば、便にしろ、尿にしろ、唾や痰にしろ、身体の中にいる時は大事な仕事をしていたモノです。しかし、不思議なことに世間の常識では一度身体の外に出たモノには、冷たい仕打ちが待っています。でも、やさしい心を持って、「おなら」と同様「うんこ」にも声援を送る詩人がいます。

うんこの うんこは ちんぷん
うんこの うんこは おおきく

うんこじいものは
うんこな かたちをつくる

うんこのうんこ うんこ
うんこのうんこ うんこ

うんこじいものは
うんこな うんこじい

うんこじいものは
うんこな うんこ

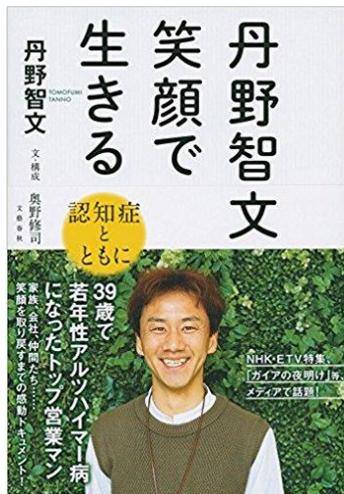
うんこ

谷川俊太郎



認知症とともに生きよう

大井玄さんがこの本を強く推薦されました。39歳で認知症を診断された彼が最も怖れたのは予測できぬ先への不安です。自ら偏見に陥り



自分や周囲の人が自由に動けない事も知りませんでした。彼を変えたのは、不安を乗り越えた先輩当事者の笑顔でした。以来、彼は認知症であることを隠さず仕事をして、休みの日は当事者の会に走り回っています。そんな彼が英国を訪ねた時の話です。スコットランドでは「認知症とともに生きよう」という運動が進む一方で、イングランドにおいては「認知症をなくそう」とのキャンペーンがなされていますが、排除する傾向を含む動きは生きにくい社会を到来させる怖れはないでしょうか。患者ではなく当事者として彼が学んだことを列挙します。

- ・認知症は恥ずかしくないと言明し堂々としてしよう
- ・症状が進行しても自分の事は自分でしよう
- ・サポート体制が整っているからこそ自立が可能
- ・当事者は認知症（自分自身）を知るため啓発をできる人ができない人のためにやる必要がある
- ・自分自身の周囲から変えることが大事である

どんな病気であっても、それと共に生きようという自立の姿勢を、丹野さんから教えられるように思います。仮に、がんであっても、精神疾患であっても、障害であっても其儘は同じようですね。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可